

思い出がつまった牛乳

岩成台西小学校 宮川 まりの

「・・・」私は、牛乳が好きでもきらいでもありません。でも、牛乳は、私にとって、二つ目の思い出がつまっている給食です。

一つ目の思い出は、牛乳といっしょに苦手な給食を食べ切ったことです。私は、今まで食べ切れなかった給食が二つありました。二つとも、初めて食べ切ったときは、牛乳といっしょじゃないと食べられませんでした。今では、牛乳といっしょじゃなくても食べることができるとなりました。

二つ目の思い出は、だれかが牛乳を飲むときに、友達がおもしろいことを言っていたことです。今はコロナだからできていませんが、コロナの感染対策をする前は、班で向き合って、しゃべりながら食べていました。その時、だれかが牛乳を飲み始めると、みんな面白いことを言います。そんな、面白く、楽しい時間が私は好きでした。

三つ目の思い出は、牛乳が苦手な友達が、牛乳を飲み切ったときに、二つの大事なことに気付いたことです。一年生のとき、牛乳が苦手だった友達のことを、クラスみんなで応えんして、その友達は、牛乳を飲み切りました。そのときに、応えんはがんばっている人をすぐ勇気づけるといいうことに気付き、がんばれば、苦手なことでもできることに気付きました。友達は、

「応えんがなかったらたぶん残してた。」と言っていました。それを聞いたとき、私は、「応えんはだれかを勇気づけることができるんだ。」と思いました。また、飲み切れたのは、応えんだけではなく、友達ががんばったのもあると思います。苦手なことでもがんばった友達を見て「がんばれば、苦手なことでもできるんだ。」と思いました。

私はこれから、がんばっている人がいたら応えんして、自分も、苦手なことでもがんばろうと思います。